

伊賀市は市制10周年を迎えました。そして…

広報いが市 も 10周年

2004年11月に発行した「広報いが市」創刊号



← 10年!

2004年(平成16年)に伊賀市が誕生してから10年がたち、市制10周年と同時に、「広報いが市」も10周年を迎えました。市からのお知らせや催しの案内、市内のできごとなどをお伝えして10年、本紙で第216号となりました。創刊号の表紙を飾ったのは、伊賀市誕生の年に生まれた赤ちゃんでした。あのとときの赤ちゃんが今は10歳。生き生きと過ごす10歳の少年です。広報いが市も、これまで以上にわかりやすく役に立つ広報紙めざして成長し続けます!

▲創刊号発行から10年。あのと
きの赤ちゃんは、プロ野球選手
を夢見る、笑顔のすてきな少年
に成長しました。市内でお気に
入りの場所は大村神社だそう。



市の広報活動には、市民の皆さんに さまざまな形でご協力いただいています。

▶創刊号から「広報いが市」の音訳をしてくださっている“音訳グループしのび”の岸森千賀子さん(右)と石山淑子さん(左)。広報紙には図版や写真も多く、わかりやすく伝えるよう工夫しながら音訳してくださっています。



◀「点訳奉仕グループあい」の松本明美さん。広報いが市を8人で点字に訳してくださっています。12ページの広報は点字にすると90ページもの量になるのだそうです。

▶パソコンの専用ソフトで、点字のデータを1文字1文字作ります。点字プリンタで出力した点字版広報いが市。



▲行政情報番組ウィークリー伊賀市の市民スタッフのひとり、日置智啓さん。番組の特集などで活躍していただいています。「広報いが市」でよく読む記事は、上野総合市民病院の職員によるコラム「カラダのことおしえて!」だそうです。

伊賀市とともに。

広報いが市の歩み、10年

▲平成16年、伊賀市の誕生とともに広報いが市の歴史が始まりました。当時は1カ月に1号の発行でした。



▲鮮度の高い情報を掲載するため、平成18年度からは、1カ月に2回の発行になりました。特集やコラムなどを掲載する1日号とは違い、15日号は表紙もお知らせ記事のスペースとし、1日号に入りきらない情報を盛りだくさんに掲載できるようにしました。



▶平成25年10月からは、題字を変更し、1日号の表紙を全面写真としました。表紙写真は、このあと平成26年5月からカラーになり、現在に至ります。表紙写真を通して、毎月市民の皆さんの生き生きとした表情や、伊賀市のすばらしい風景などをお届けしています。

広報いが市では、よりよい広報紙にするために、皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

岡本市長にとっての

伊賀市生誕10周年！

伊賀市が誕生して、10年がたちました。合併のときに生まれた子どもたちが、今年で10歳になります。おぎやあと生まれた赤ちゃん、小学校4年生になり、しっかりと勉強やスポーツにいそしむようになるだけの年月、それが10年です。

公務で他市の市長などとお目にかかって話をする中で、最近改めて感じるのは、伊賀市ということ、実にたくさんの可能性を秘めた土地柄だということです。歴史があり、豊かな文化と自然を有し、さらには、大阪、京都、名古屋に近いという立地の良さもあります。伊賀は山国といわれますが、江戸時代は船便が伊賀まで来ていました。

伊賀に住む私たちは、現在の伊賀の姿だけにとらわれることなく、伊賀が持っている可能性を最大限に生かしたまちづくりを進めていかななくてはなりません。

伊賀市が誕生して10年。さらに10年がたてば、合併の年に生まれた子どもたちは20歳です。そのときには、生まれ育ったこの土地に愛着と誇りを持って、伊賀市を作ってくれてくれることでしょうか。



10周年を迎えた今、10年後、さらにもっと先と、未来を見据えることが、一人ひとりにとって必要ではないかと考えます。